

令和6年度版 「はちおうじっ子に基礎的・基本的な学力を身に付ける」ための取組

令和6年度版
(2024年度版)

令和3年度

- 学力定着度調査の対象学年を、小学校第4学年から中学校第3学年(義務教育学校第4学年から第9学年)とし、小学校・義務教育学校第4学年以上の児童・生徒が、自らの定着度を把握できるようにした。(小学校は「国語」「算数」、中学校は「国語」「数学」で実施し、出題範囲は当該学年の前年度までの学習内容とした。)
- 習得目標問題のみを出題し、改めて習得目標問題の定義を全小・中・義務教育学校及び全児童・生徒へ周知した。
- 調査を年2回実施し、第1回の類似問題を第2回に出題することで、学校が習得目標問題につまずいている児童・生徒を把握し、その後の指導に活かせるようにした。また、児童・生徒は、第1回からの伸びやできるようになったことを確認し、自信につなげられるようにした。

令和4年度

- 学力定着度調査の対象学年は、小学校第4学年から中学校第3学年(義務教育学校第4学年から第9学年)とし、実施教科は、「国語」「算数(数学)」で実施した。
- 5月に第1回調査を実施し、1学期中に結果を返却した。その後、夏季休業中及び2学期に復習の期間を設定した上で、12月頃までに第2回調査を実施した。第2回の調査結果から、学校は児童・生徒一人ひとりの定着度を把握した上で、年度内に当該学年の学習内容の定着を図った。
- 学力定着度調査の結果と1人1台の学習用端末を活用したドリル型学習コンテンツを連携させ、児童・生徒一人ひとりの定着度に応じた学習の充実を図った。また、学年をさかのぼって復習することや、再診断するための確認テストを個別に実施できるようにした。
- 学力定着度調査のデータを蓄積するシステムを活用し、児童・生徒の必要な結果データを必要な時に教員が取り出せるようにした。学校は、過年度の結果と今回の結果を比較し、前回からの伸びやできるようになったことを確認できるようにした。また、小学校の結果を中学校へ引き継げるようにした。
- 基礎的・基本的な知識及び技能を問う習得目標問題を約7割、思考力、判断力、表現力等を問う問題を約3割出題する総合的な調査内容とした。

【言葉は真】 習得目標問題の定着が十分でない児童・生徒は、小学校第4・5学年相当の学習内容の定着が不十分であることから、その後(小学校第5・6学年から中学校段階)の学習につまずく傾向が見られる。

課題解決に向けて

国語及び算数において、社会生活を営む上で、最低限身に付けるべき学習内容の中から、抽出した問題を「はちおうじっ子ミニマム」と位置付ける。

小学校第5学年修了段階における基礎的・基本的な問題

【目標】
義務教育修了段階までに全ての児童・生徒が定着できるようにする。

令和5年度以降

はちおうじっ子ミニマムの 確実な定着に向けて

習得目標問題「はちおうじっ子ミニマム」は小学校第5学年までの基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付ける目的として実施するものだが、前学年までの学習内容を確実に定着できるようにすることが重要である。児童・生徒一人ひとりの伸びを把握し、次学年に引き継ぐことで、義務教育修了段階における学力を保障する。

(例)【算数】

小学校第3学年修了段階	かけ算九九、2位数の加法・減法
小学校第4学年修了段階	わり算(2桁÷1桁)、かけ算(2桁×1桁)
小学校第5学年修了段階	分数の加法・減法、わり算(2桁÷2桁)

はちおうじっ子ミニマムの定着に向けた取組 「はちおうじっ子ミニマム」の実施

- ①児童・生徒がつまずきの原因を把握し、その解決に向けて取り組む。
全員が小学校第5学年修了段階における基礎的・基本的な問題(国語及び算数)の内、教育委員会事務局が抽出・作問した20問を「はちおうじっ子ミニマム」とする。
- ②各学校は、「はちおうじっ子ミニマム」を年2回実施し、児童・生徒一人ひとりの定着状況を確認する。実施学年は、小学校第6学年から中学校第3学年(義務教育学校第6学年から第9学年)とし、年度内の2回は同問題で実施する。
- ③「はちおうじっ子ミニマム」実施後、各学校は児童・生徒一人ひとりの解答結果から学習内容の定着状況を把握し、確実な定着に向けた取組(補習、朝学習、家庭との連携等)を実施する。
- ④各学校が「はちおうじっ子ミニマム」の定着状況を経年で把握し、義務教育修了段階までに、全ての児童・生徒100%定着をめざす。

各学年で身に付ける力の定着に向けた 各学校の取組

- 学校は、「はちおうじっ子ミニマム」の結果から、一人ひとりの定着の程度を把握する。
- 児童・生徒及びその保護者が、「はちおうじっ子ミニマム」の問題について、どの程度定着しているかを把握する。児童・生徒一人ひとりが、基礎的・基本的な学習内容について、目標や課題を明確にした上で主体的に学習に取り組めるようにする。
- 教員は、児童・生徒一人ひとりの実態を把握した上で、個に応じた指導を行う。また、学校は家庭学習について保護者への啓発を行う。
- 学校は、「はちおうじっ子ミニマム」の結果から課題を明確にした上で、板書や発問、ワークシートなど、実態に応じて工夫をするとともに、立式の意味を言葉や図、絵などで表現させるなど、具体的な手だてを講じながら、授業改善に取り組む。
- 学校は、「学力定着プロジェクトチーム」を中心に、「はちおうじっ子ミニマム」と各種学力等調査結果を基に実態を把握し、確実な定着に向けた具体的な取組を小中一貫教育グループで進める。
- 学校は、調査のデータから過年度の結果と今回の結果を比較し、前回からの伸びやできるようになったことを確認する。

4月 5月 7月 9月 11月 12月 2月 3月

全体

はちおうじっ子ミニマム(第1回)の実施 | 八王子市学力定着度調査(第1回)の実施 | 八王子市学力定着度調査(第1回)の結果返却 | はちおうじっ子ミニマム(第2回)の実施 | 八王子市学力定着度調査(第2回)の実施 | 八王子市学力定着度調査(第2回)の結果返却

各学校

前学年までの復習(ドリル型学習コンテンツの活用) | 定着が十分でない児童・生徒の把握 | 授業改善・授業支援ツールの活用 | 授業改善・授業支援ツールの活用 | 児童・生徒の実態把握・引継ぎ

確実な定着に向けて

個に応じた学習の充実(ドリル型学習コンテンツの活用)

個に応じた学習の充実(ドリル型学習コンテンツの活用)